



La faux

-夢幻聖母-

"Fate/GrandOrder"
respect book
for adult only

STUDIO TIAMAT PRESENTS



ジャンヌの
ママさん…

本当に…
良いんです
ね…？

どき

しる…



ええ…
構わないわ…

その…他に
手は無いので
しょう…？



きゅ…



そんな事
ないですっ

んんん

むち...

ママさんは
ジャンヌに
負けてません...

現に
ホラ...

みち

みち

ココはママさんを
孕ませようと
昂ぶってる...

あ...

んんん



実娘の真名を
借り受けた「偽英霊」の
サーヴァントである

私の名前は
ジャンヌ・ダルク
イザベル・ヴァロン

はあ...

あ...ん

あ...ん

んんん

んんん





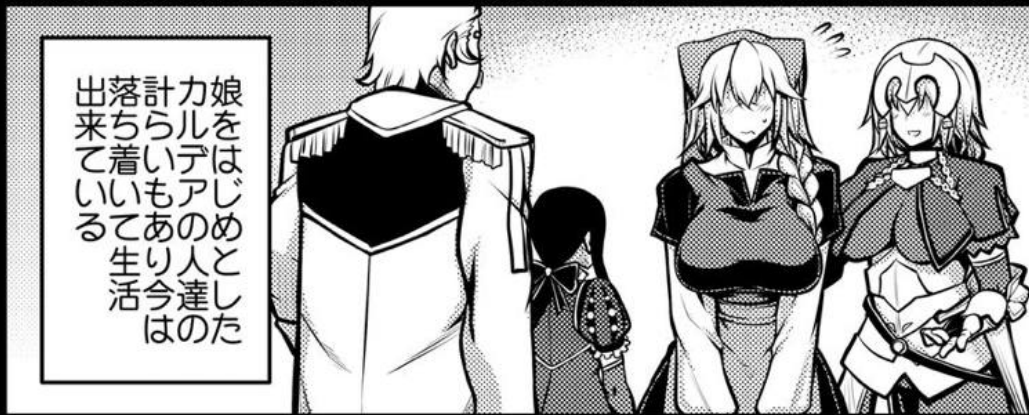
目が覚めた先で
出会ったマスターと
その…色々あって
娘の霊基として英霊化
したとか…

詳しい事は解らないけど
私は娘の記憶から
再現された存在らしい

原因

おっ

※前作「～快胎聖母」参照



娘を始めるとした
力デアの人間は
計らもない生活
落ち着いてる
出来ている

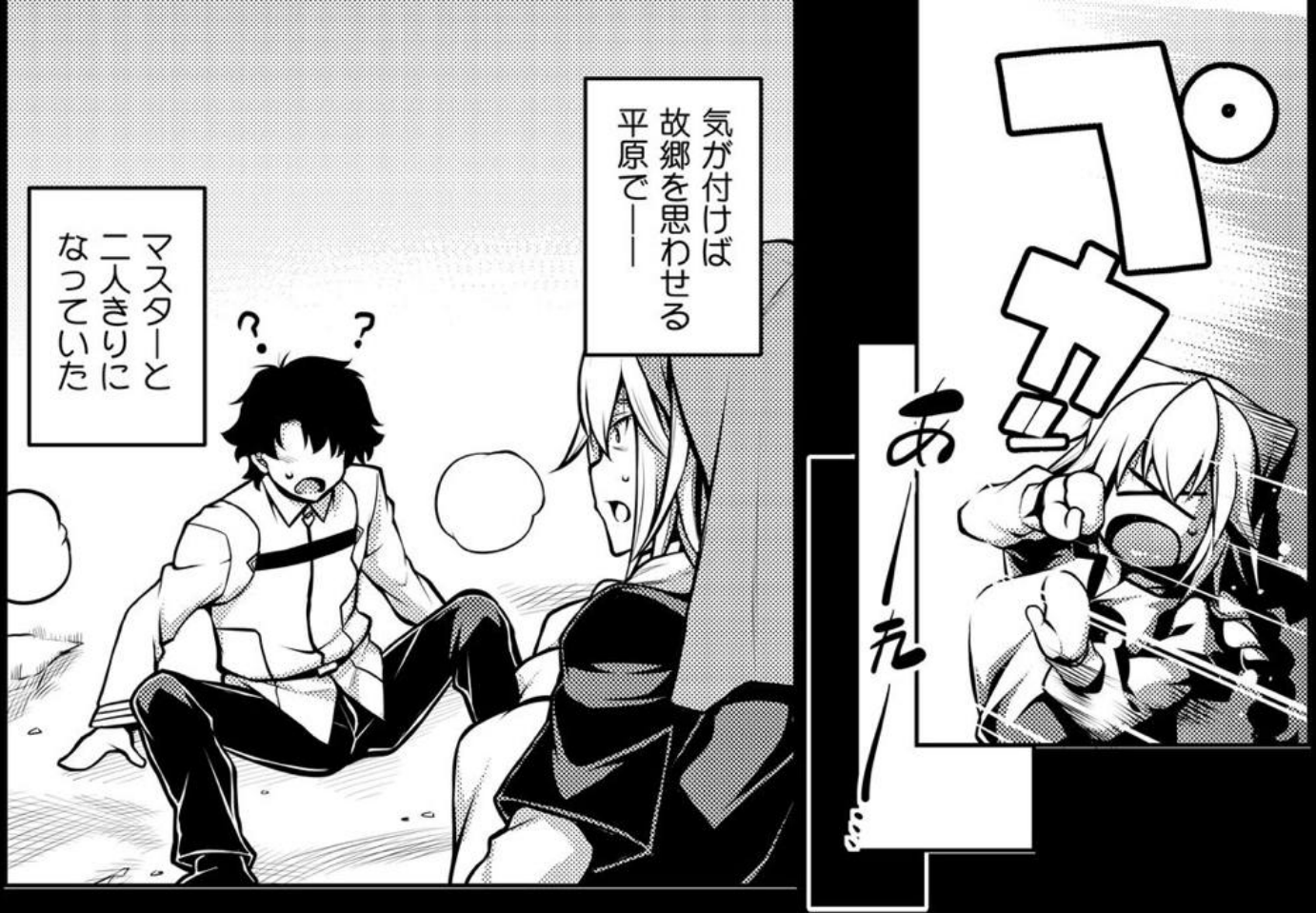
自身の状況を
呑み込むには
それなりに時間
要したけれど…



偶然
聖杯の保管庫に
立ち入ってしまった…



そんなある日
カルデアの施設内で
迷子になった
私は…



気が付けば
故郷を思わせる
平原でー

マスターと
二人きりに
なっていた

あーん

マスター曰く
ここはサーヴァントの
「夢の中」だそうぞ

新たに英霊を迎えては
必ず一回は閉じ込められる
一種の通過儀礼のような
ものらしい



今回は聖杯が絡んだ事で
非常に厄介な様相に
なったようぞ...

も...

大抵は夢の主の悩みに
起因した状況を一緒に
解決すれば済むのだけど...



くじちり
聖杯は—

私の子宮を
同化したらしい



恐らくは
以前彼と偶然
契約した時

ほんの少しだけ
抱いた「願い」の
せい…

実娘と睦み合う
男性との子を望む
なんて…

我ながら何て罪深く
浅ましい願いだろう…

とはいえ
サーヴァントは
子を作れない

では聖杯は如何にして
私の願いに応えるのか
と云うこと…

あーりつたけの
マスターの魔力を
注ぎ込み

聖杯そのものを
受胎させる事





気持ち良いよ
ママさん…っ♡

あ…うっ
良い…っ♡



あっあっ

あっあっ

夫のとは
太さも張りも
全然違う…♡

ああ…
この膣壁を擦る
嬉しい感触…♡



あの娘を産んだ
オマ〇〇を…

その恋人の
肉棒が犯してる…♡



あっ

あっ

主よ…

この不貞をどうつか
お許し下さい…!

わっ
わっ
わっ

わっ
わっ
わっ

あまみ

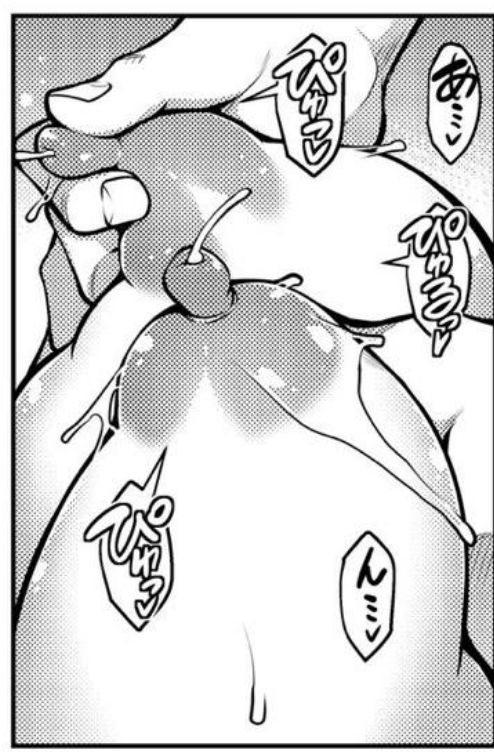
あまみ



以前抱いた時も
そうだったけど
ママさん...

感じるところは
ジャンヌと殆ど
同じなんだ...

いや...あ...っ
そんな...恥ずか
しい...い...♡







…不思議な気分……



美味いよ…
ママさん…♡

美味い…♡



甘え絶える
顔は子供の其れ
なのに……

こっして
喉を鳴らして
母乳を貪り……



これ以上ない程に
雄そのもので…♡

容赦なく膣内に
突き込まれた
肉棒は……



まるで母性と
雌の本能が同時に
満たされていく
ような充足感…♡

夫と愛し合ってた
時でさえこんな
感覚なかった…♡



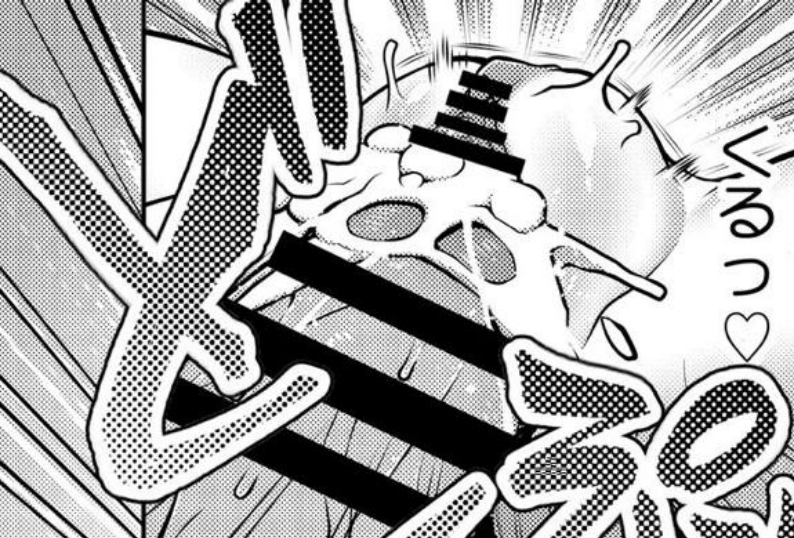
俺…そろそろ
射精そ…う…っ

ママ…
さん…っ



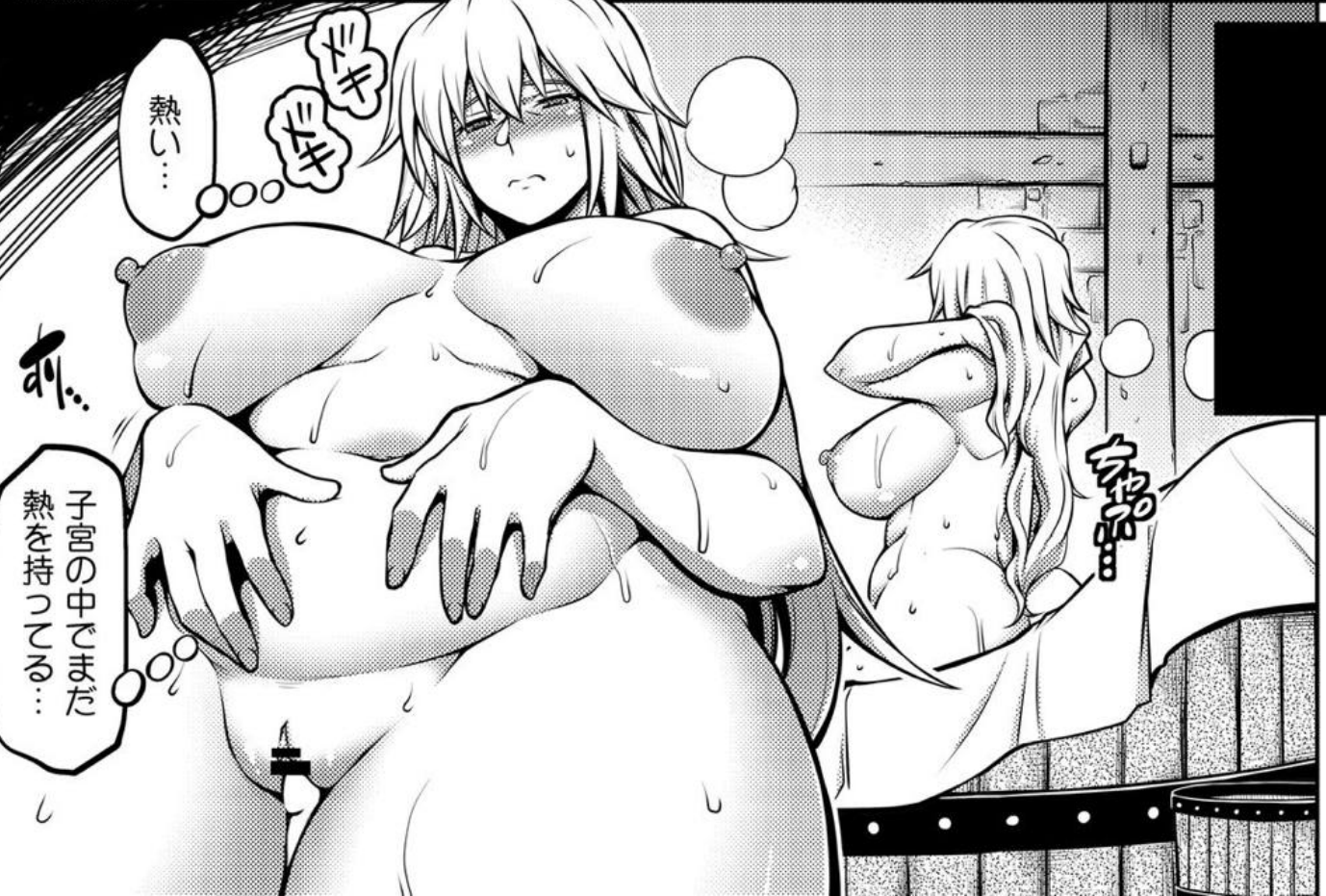
膣肉を分け入って
子宮を狙ってる…♡

「突き毎に膨らんで
きているのが分かる…♡



私の腔奥...
子宮に種付け...♡

ああ...くる...
精子がくる...♡



あぁ…スゴく
良かった…♡

こんなに
射精るなんて…
思わなかった…

は…

は…あ…♡

どう…だった
かしら…
マスター…？

は…

は…

は…

アホ…

アホ…

あ…はい…

…身体…
洗ってきても
良いかしら…？

そう…
ところで…

熱い…

アホ…

アホ…

子宮の中でまだ
熱を持つてる…

アホ…



身体が
年甲斐も無く
悦んでる…♡

あの子に
抱かれた感触が
忘れられない…♡



切ない疼きで
乳房が張って
いくみたい…♡



勃起した乳首からは
相変わらず母乳が
溢れてくる…♡





ああ…うっつ♡
た…
堪らないよ…
ママさん…っ♡

もっど…
もっど…
啜え込んで…っ♡



は…
は…
は…



ん…
ん…
ん…



あれだけ
射精したのに
まだ固い…♡

ああ…私は
本当に淫りな
女だわ…

またこの肉棒に
犯してもらえぬ事に
心から悦んでる…♡





あ...

ホラ...
こっちに...



ん...



や...や...

ほ... スゴいよ...まだ
こんなに射精
なんて...♡

ほ...



ああん...

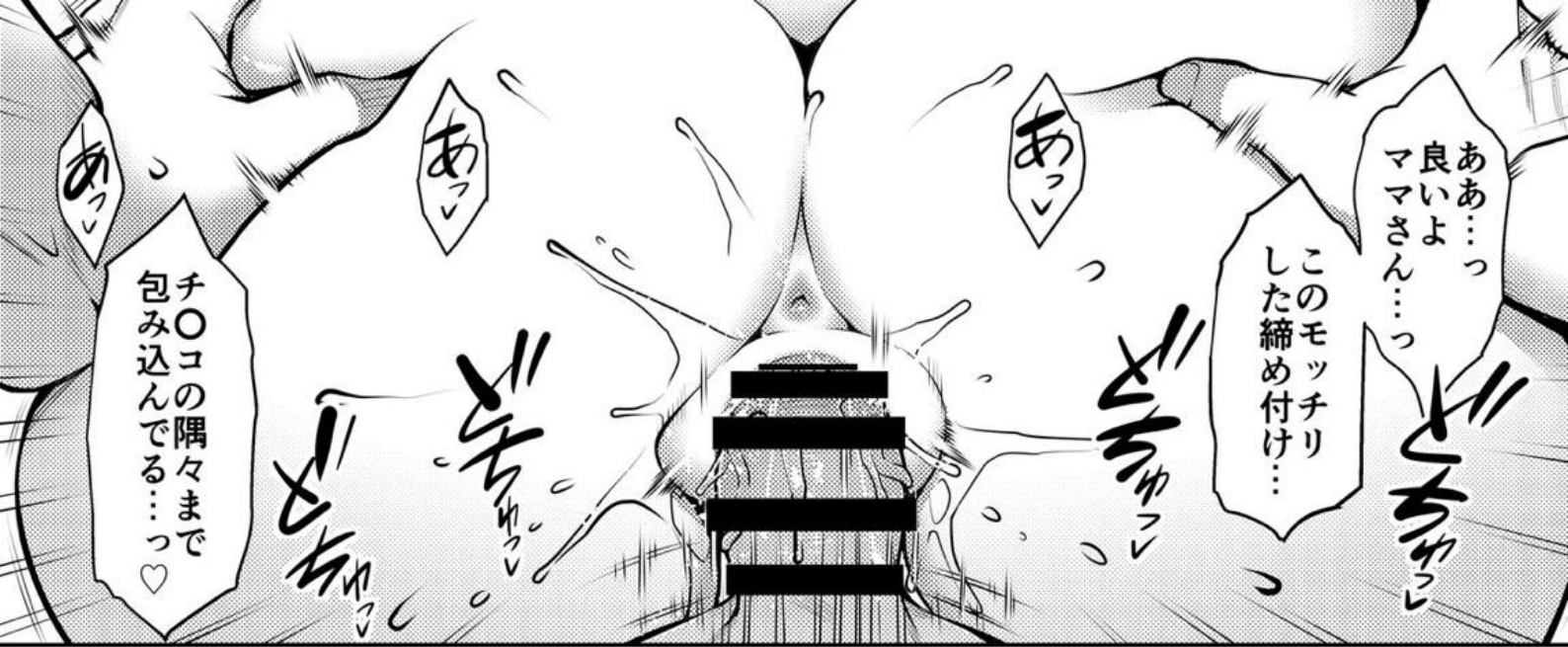
あは...

あは...

きんきん...

ん...

ん...



ああ…っ
良いよ
ママさん…っ

このモッチリ
した締め付け…

どちゃっ

あっ

どちゃっ

チョコの隅々まで
包み込んでる…っ♡



あん

マ…
マスター…

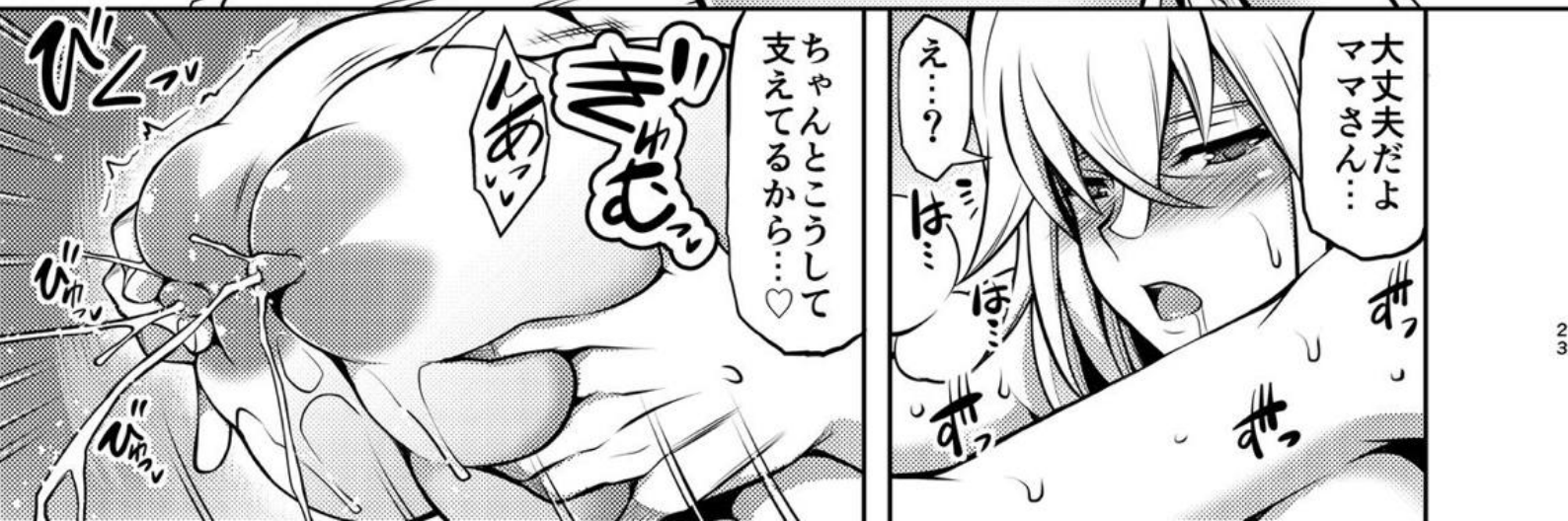
そんなに…
激しくしたら…

はっ

あん

はっ

私…とても…
立…あ♡
な…♡



大丈夫だよ
ママさん…

え…?

は…

は…

は…

ちゃんとこうして
支えてるから…♡

あん

はっ

あん

あん

あん

あん



おまけにっ

あーあ

びびっ

びびっ

びびっ

ぽんぽん

ぽんぽん



こうして
勃起乳首を
弄ると...

ミルクが滲んで
ヌルヌルして
スゴくHだ...♡

びびっ

びびっ

あーあ

あーあ

あーあ

あーあ

ぽんぽん

ぽんぽん



母乳のたっぷり詰まった
揉み応え抜群のおっぱいの
感触を味わいながら膣奥に
チ○コ突き立てるの...

病みつきに
なりそうだよっ♡

あーあ

あーあ

あーあ

あーあ

あーあ





二人は互いに
衰えを知らない
「子作り」に身を
委ねていた…♡



所構わず
盛りあつた

それから
私達は



この特異点において
生活に要する物資に
不自由する心配は
無いらしい。

親子程の年の差も
些末な問題でしか
ないようです。



多くの死線を
くぐり抜けた
マスターの性欲は

豪壮な英雄の
其れと言つて
過言はなかつた

んあーっ

すっさっ

すっさっ

すっさっ

たの



そんな彼に
差し出せる
ものが—

こんな年寄りの
弛んだ肢体だけ
と言つ事に初めは
申し訳なく思ったが…

びん
びん

きゅらららら...

あーっ



そんな気持ちは
すっかり悦びに
置き換わつていた

ん
ん



連日
朝昼晩と求められ
子宮に注がれる
子種の熱に

あーっ
びん
びん





ほっ
ジャネット
やっぱり…
娘の事が恋しい
のかしら…?

ほっ
もう…
こんな格好まで
させてセックス
したいなんて…
ほっ

ん〜
ん〜
ん〜
ん〜
ん〜



恋しくないと
言えば嘘に
なるけど…

ママさんにも
似合うと
思ったんだ…

ママさんも
ジャンヌと同じ
聖女…聖母だから…

…
♡

本当に貴方は…

こんな年寄りも娘のように愛してくれるのね…

勿論だよ…っ

俺は…んむ…

そんな貴方だから…

私も愛して…まいのね…

びくっ
びくっ

びくっ
びくっ
びくっ



これって...
もうすぐ
産まれるって
事かな...?

ん...む...♡
また...
少し動いた...

ん...ん...
ん...ん...



そうね...そして
この子聖杯が産まれたら
この夢もお仕舞い...

そう考えると
少し寂しいわね...

こんなに満ち足りた
気持ちでの子作りは
久しぶりだったから...

もろもろ

たのび

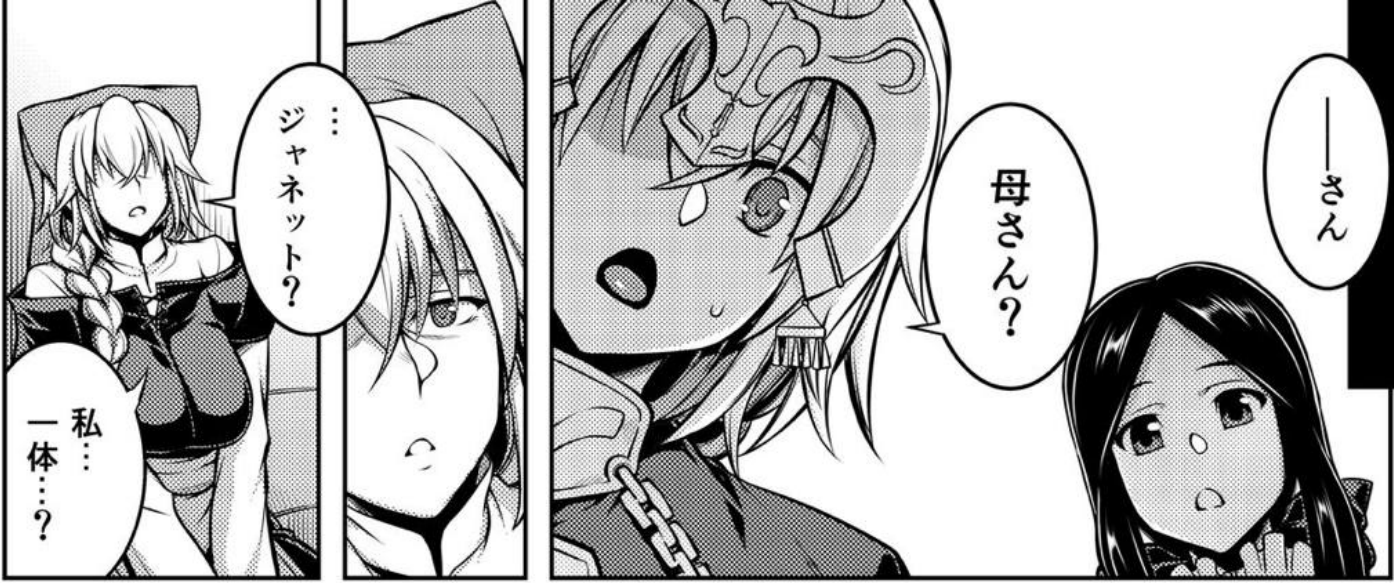


ここの特異点を出たら
改めて娘共々
宜しく...ね...

はい...
ママさん...

あむ

ん...ん...



—さん

母さん？

… ジャネット？

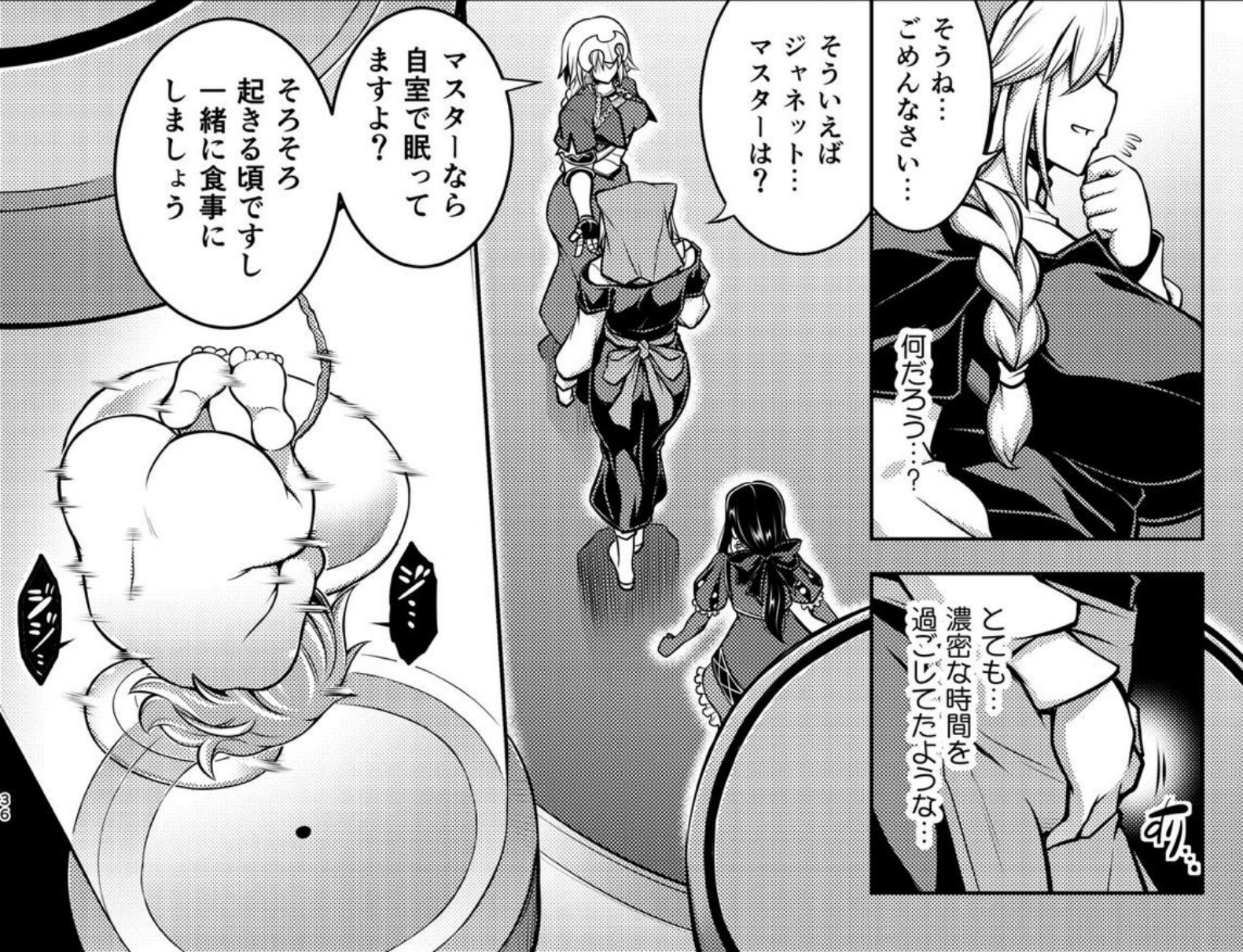
私…
一体…？



大丈夫…
眠ってただけ
みたいだから

ただここは
聖杯保管庫だから
あまり長居しない
方が良くないかな？

もう…昔から
迷子になった先で
居眠りするの
悪い癖ですよ…
それで何度
父さん達に心配
かけたか…



そうね…
ごめんなさい…
何だろ…？

そういえば
ジャネット…
マスターは？

マスターなら
自室で眠って
ますよ？

そろそろ
起きる頃ですし
一緒に食事に
しましょう

とても…
濃密な時間を
過ごしてたような…



La faux

-夢幻聖母-

発行元：STUDIO TIAMAT
発行日：2022/08/14
配信元：DLsite
サークル連絡先：TANABE
E-mail:tanabe@studiotiamat.sakura.ne.jp
URL:<http://studio-tiamat.sblo.jp/>
※無断閲覧・複製・転載禁止